＼遠野中学校区コミュニティスクール通信／

CS Letter

2025.9
NO.2

NEW 遠野中学校区共通で、ノーメディアの取り組みを実施しました

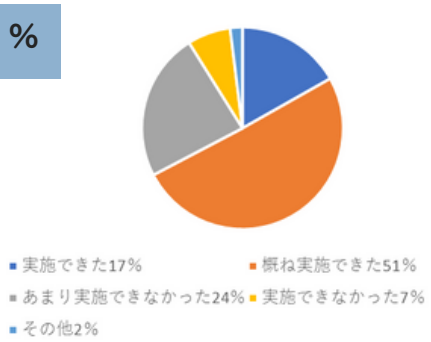
６月25日～７月２日の期間、遠野中学校区の小中学校で、ノーメディアの取り組みを共通して実施しました。これは、別々の期間に取り組んだ場合、例えば、中学生の兄はノーメディアに取り組んでいる横で、小学生の弟はスマホで動画視聴しているという状況が考えられることから、共通で取り組むことにより取り組みの効果を最大化させることをねらいとしたものです。

今回の通信では、取り組み後に実施した保護者アンケートの結果を掲載いたします。

回答数234件

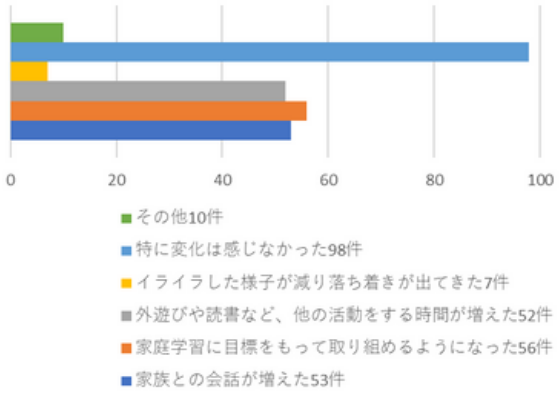
◆各学校で定められたノーメディアを実施できましたか？：％

「実施できた」と「概ね実施できた」の合計が68％となっており、多くのご家庭で取り組んだことが伺えます。より実施率を上げるために、ノーメディアの目的やメリットについて家族で共有し、ルールを一緒に決めることで、子どもも納得して取り組みやすくなる、また「みんなでやっている」という意識があると声かけもしやすくなる、といった声がありました。



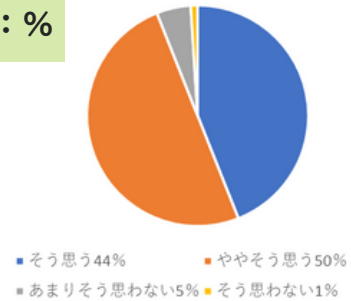
◆ノーメディアデーを通じて、お子様にどのような変化がありましたか？(複数回答)：件

「特に変化は感じなかった」が98件で最多ですが、自由記述では「普段から取り組んでいるため」との声も多くありました。他にも、ノーメディアにしたことで家族で会話する時間が増えたり、兄弟同士でキャッチボールをするなど一緒に過ごす機会が増えたという声や、メディアに触れる時間が減ったことで、早寝につながったり、テスト勉強や宿題に集中できた、静かに過ごせたという意見が見られました。



◆今後も定期的にノーメディアデーを設けたいと思いますか？：％

「そう思う」「ややそう思う」を合計して94％の保護者が継続して実施したいと回答しており、この取り組みに意義を見出している様子が伺えました。その一方、「取り組みの意義を、学校はしっかり子供に説明してほしい」という声もありましたが、その部分こそ学校ではなく、家庭教育や、地域の力を子育てに活かすコミュニティスクールの役目なのかなと思います。



＞エリアコーディネーターより

ノーメディアと聞くと、メディアをいかに使わせないかという考えになりがちですが、メディア以上に魅力的な活動の時間をいかに増やせるかという視点も重要です。この通信が、地域が子供達のノーメディアにどのように関わることが出来るか、考えるきっかけとなれば幸いです。

遠野中学校区学校運営協議会　エリアコーディネーター
多田宜史(担当:遠野中・遠野北小・附馬牛小)090-9033-5513(代) ／　伊賀美恵子(担当:遠野小・綾織小)